

町民の協力に感謝 交通死亡事故ゼロ3000日達成



↑ 県交通対策協議会長表彰伝達式の様子

広野町は、7月17日に交通死亡事故ゼロ3000日を達成しました。翌18日（金）には福島県交通対策協議会長（知事）表彰が県相双地方振興局長から広野町交通対策協議会長（町長）に伝達されました。平成18年4月30日、折木地区の県道いわき浪江線で起きた死亡事故から8年以上経過しましたが、町民一丸となって交通安全に取り組んだ成果が出ました。

東日本大震災以降は町内を通る車両も増加していますが、今後も関係機関と連携して交通事故防止に努めていきます。

政府官邸など6か所に いわき市と 双葉地方町村会との合同要望



↑ 内閣官房副長官に合同要望書を提出する様子

遠藤町長は、6月30日（月）、いわき市長や双葉郡の町村長らとともに首相官邸、自由民主党本部、国土交通省、復興庁、厚生労働省および環境省を訪れ、世耕弘成内閣官房副長官らに、抜本的な医師確保対策など3項目を要望しました。

いわき市と双葉地方町村会との合同要望活動は、東日本大震災後初めてのことでです。

県下一消防団の証 消防団が「民報金ばれん」を披露



↑ 「民報金ばれん」を掲げて行進する広野町消防団

広野町消防団は、6月29日（日）、中央体育館で「民報金ばれん」受賞報告会～帰町・復興への願い～を行いました。「民報金ばれん」は、県内一すぐれた消防団を称えるもので、7日（土）に第27回県消防大会で授与したことを、披露するものです。

報告会の出席者は約180人で、復興庁福島復興局長や、衆議院議員から祝辞を受けました。

あいにくの悪天候で、予定していた受賞パレードは中止になりましたが、午後から雨も上がり、「金ばれん」を白日の下で披露しました。

広野中校舎利用などを確認 中高一貫校に 係る相互協力・連携に関する協定を締結



↑ 中高一貫校に係る相互協力・連携に関する協定締結の様子

広野町は、7月14日（月）、福島県教育委員会と中高一貫校に係る相互協力・連携に関する協定を締結し、広野中学校の校舎を県立中高一貫校の仮校舎として利用することなどを確認しました。

町長は、杉昭重福島県教育長とともに協定書に署名、調印しました。

大雪の被災地に寄付 鬼越仮設住宅自治会が感謝状授与の報告



↑ 感謝状授与の報告をする鬼越仮設住宅自治会の役員

6月10日（火）、鬼越仮設住宅自治会の役員が町長室を表敬訪問しました。

同自治会は、2月の大雪で大きな被害が出た山梨県笛吹市に寄付をし、笛吹市長から感謝状を受けたことの報告が目的です。

大きく育て ふくしまオーガニック コットンプロジェクト



↑ ふくしまオーガニックプロジェクトの作業を手伝う町長

7月12日（土）、広野町大字下浅見川地内で、NPO法人JKSKボランティアバスツアーに首都圏から参加した人と広野町民が、ふくしまオーガニックコットンプロジェクトの活動を行いました。今回は6月に種まきをした苗の補植と除草が主な作業で、参加者は、汗ばむ陽気の中でも楽しそうに和綿の手入れに精を出していました。

当日は遠藤町長も作業を手伝い、気持ちのいい汗をかきました。

4年後に期待 サッカー日本代表を応援



↑ 始業時間前を利用してサッカー日本代表を応援

広野町はサッカーのまち。2014 FIFAワールドカップブラジル大会期間中は、町職員が日本代表ユニフォームを着用して執務するなど、サッカー日本代表を町ぐるみで応援しました。

6月20日（金）はギリシャ戦。町長はじめ職員も、役場の始業時間前を利用して、午前7時のキックオフから約1時間、町長室に集まって声援を送りました。試合は惜しくもドローで、決勝トーナメント進出もかありませんでしたが、町はこれからもサッカー日本代表を応援します。

全国行政相談委員連合協議会「会長表彰」 を受賞 広野町担当の行政相談委員



↑ 6月19日に町長室で受賞報告する金子行政相談委員

広野町担当・行政相談委員の金子晴美さんが、全国行政相談委員連合協議会会長表彰を受賞し、5月23日（金）に開催された福島県行政相談委員連合会全体会議の席で表彰状の伝達が行われました。

この表彰は、協議会の発展に関し功績のあった相談委員を表彰するもので、金子さんは平成10年に行政相談委員に就任して以来、16年にわたり相談者と行政との架け橋として活躍していますが、東日本大震災以降は、いわき市の高久第四応急仮設住宅集会所などで私費を投じて『お茶会』を定期的に催し、被災者からのさまざまな困りごと相談を受けてきました。

また、これらの活動が目され、一昨年には総務省主催の行政相談委員中央研修で福島県代表として体験発表を行うなど、様々な功績が認められ、このたびの受賞となりました。